

会議議事録

1. 会議名 平成 28 年度第 4 回中間市地域公共交通会議
2. 開催日時 平成 29 年 2 月 3 日（金曜日）10 時 00 分から 11 時 00 分まで
3. 開催場所 中間市役所別館 3 階特別会議室
4. 出席委員（24 名）

中間市副市長	後藤 哲治
中間市総合政策部長	藤崎 幹彦
中間市土木管理課長	藤田 晃
西鉄バス北九州株式会社 営業本部計画課長	松村 茂寿
筑豊電気鉄道株式会社 運輸車両課長	秋山 務
有限会社ことぶきタクシー 代表取締役	小林 義人
有限会社ホームタクシー 代表取締役	高亀 勝
産業タクシー株式会社 代表取締役	森 正秀 (代理) 黒土 功
ひかり第一交通株式会社	谷口 雅春
一般社団法人北九州タクシー協会 副会長	貞包 健一
西鉄バス北九州労働組合	木原 正志
中間市自治会連合会会長	池田 久紀
中間市自治会連合会中間南校区長	松崎 英人
中間市自治会連合会中間校区長	香月 国光 (代理) 仰木 節夫
中間市自治会連合会中間西校区長	石田 輝男
中間市自治会連合会底井野校区長	齊藤 明
南校区バス運用協議会	山下 徹
中間商工会議所 副会頭	日高 教夫
国土交通省九州運輸局福岡運輸支局 首席運輸企画専門官	中藪 裕蔵
国土交通省九州運輸局福岡運輸支局 首席運輸企画専門官	河津 隆幸
福岡県企画・地域振興部交通政策課 交通総務係長	堺 裕之
福岡県北九州県土整備事務所 地域整備主幹	橋村 浩
福岡県折尾警察署交通第一課交通規制係長	吉村 道真
北九州市立大学 都市政策研究所 教授	内田 晃

5. 欠席委員（4名）

九州旅客鉄道株式会社 筑豊篠栗鉄道事業部長	幸野 茂
一般社団法人福岡県バス協会 専務理事	中川原 達也
中間市自治会連合会中間東校区長	田口 孝一
中間市社会福祉協議会 事務局長	久内 勝

6. 事務局（3名）

住宅都市交通対策課長	佐伯 道雄
住宅都市交通対策課 交通対策係長	谷山 隆二
住宅都市交通対策課 交通対策係	山口 研治

7. 会議内容

■式次第

（1）開会

（2）報告事項

中間市地域内フィーダー系統確保維持計画について

（3）議題

①中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取り組みについて

- ・南校区コミュニティバスモニタリング調査結果報告について
- ・公共交通マップ（案）について

②平成30年中間市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）の策定について

（4）その他

今後の会議スケジュールについて：平成29年度第1回交通会議【5月下旬】

- ①平成28年度決算及び平成29年度予算案の審議
- ②平成30年地域内フィーダー系統確保維持計画案の審議
- ③平成29年度地域公共交通網形成計画推進事業の取り組み

（5）閉会

■会議録

事務局 おはようございます。事務局の住宅都市交通対策課佐伯でございます。

本日もどうぞよろしくお願いたします。

定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第4回中間市地域公共交通会議を開催致します。

本日の会議の開催に際しまして、幸野委員、中川原委員、久内委員、田口委員が所用によりご欠席となっておりますことをご報告申し上げます。また、小林委員の方が遅れて参り

ますのでご報告いたします。

また、本会議は、中間市地域公共交通会議設置要綱第6条第5項の規定により、原則公開としております。

現在、傍聴者5名が入室しておりますことをご報告致します。

それでは、お手元の資料をご確認ください。

今回の資料につきましては、式次第、委員名簿、座席表、資料 A、資料 B、参考資料1、参考資料2、中間市地域公共交通網形成計画推進事業実施業務委託業務報告書（案）、公共交通マップ（案）に分かれております。

また、追加と致しましてケー・シー・エスの方からお出かけマップの原寸が出ておりますので、その資料に分かれております。

また、資料 A、資料 B、参考資料1と2につきましては、ページの下、中央部にページ番号をつけておりますので、説明の際は、ページ番号にて説明箇所をご案内いたします。

資料の不足している方はおられませんでしょうか。

それでは、議事に入らせていただきます。

発言される際はまず、挙手をしていただき、指名されましたらお手元のマイクのボタンを押して、ランプが点灯してから発言してください。発言が終わりましたらボタンをもう一度押していただくとランプが消え、マイクが切れます。

それでは、後藤副市長、今後の進行をよろしく申し上げます。

会長 皆様、おはようございます。委員の皆様、本年度、第4回目の交通会議に、お集まりいただき誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

早速ではございますが、式次第にそって議事を進めて参ります。

まず、式次第の2番目、本日の議題と致しまして、中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取り組みの①、南校区コミュニティバスモニタリング調査結果報告につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 座ってご説明させていただきます。それでは、中間市地域公共交通網形成計画推進事業の取り組みの①南校区コミュニティバスモニタリング結果報告について、ご説明致します。

資料 A の1ページをご覧ください。

中間市地域公共交通網形成計画推進事業につきましては、平成28年3月に策定した中間市地域公共交通網形成計画におきまして、公共交通の課題として（1）中間市西部の公共交通空白地区への対策、（2）中間市東部の公共交通不便地への対策検討、（3）西鉄バス中間線をはじめとする路線バスの利用促進、（4）公共交通ネットワークとしての利便性向上による利用促進を取り上げ、この4つの課題の解決に向けて、3つの方策に取り組むこととしております。平成28年度は、（1）公共交通不便地の解消として、底井野校区に平

平成28年10月からなかよし号の運行を開始し、また、運行開始1年となる南校区のフレンドリー号につきましては、平成28年10月3日から19日までの間に南校区全世帯を対象としたフレンドリー号の利用実態に関するアンケート調査を実施いたしました。また、

(2) 交通まちづくりに対する市民の意識向上では、市内にあるすべての公共交通を網羅した運行マップを3月中の配布に向けて準備を進めております。

2ページをご覧ください。

平成29年度につきましては、平成28年度の取り組みで得た情報を活用し、地域公共交通の将来像でございます体系的な交通ネットワークの整備と円滑な移動を支えるネットワークの構築に向けて、(1) 公共交通不便地の解消では、なかよし号の利用実態を把握するためのアンケート調査とモニタリング調査を実施いたします。また、南校区につきましては、平成28年度のアンケート調査及びモニタリング調査の結果を基に、南校区の住民の方を対象とした座談会を開催し、フレンドリー号等の運行計画の改善に向けて、住民ニーズの把握に努めて参ります。さらに、(2) 交通まちづくりに対する市民の意識向上では、公共交通の利用を促すため、公共交通マップの配布に引き続き、路線バス沿線住民へのアンケート調査を実施し、公共交通への転換を促すモビリティマネジメントを行って参ります。事務局といたしましては、このような乗合タクシーの利用実態の把握や公共交通の利用促進を通じて、地域公共交通の維持確保はもとより、利用しやすい環境となるよう公共交通のネットワーク化に取り組んで参りたいと考えております。

3ページをご覧ください。

中間市地域公共交通まちづくりの目標に対する評価指標を掲載しております。平成28年度は、主に、赤枠で囲まれた評価指標②南校区コミュニティバス「フレンドリー号」の利用実態の把握に取り組みましたので、モニタリング調査の結果を委託事業者でございます株式会社ケー・シー・エス様から、ご報告いたします。株式会社ケー・シー・エス様、どうぞよろしく願いいたします。

委託事業者 皆さん、おはようございます。ケー・シー・エス松本でございます。それでは、今、事務局からご指名がありましたので、モニタリングの結果をご報告したいと思っております。お手元でございます業務報告書(案)といひます冊子があるかと思ひます。こちらの中で、全体の方はこれまでご報告してありますアンケートの結果等でございますので、取りまとめとさせていただきます。45ページを見ていただきたいと思ひます。前回の会議等で、南校区のコミュニティバスの運行のモニタリングの評価とか、あるいは南校区の皆さんへのアンケート結果等から、皆さんにご報告してきたところなんです、ここでは45ページで南校区のモニタリングの結果等について、お話しさせていただきます。モニタリングに関しましては、まず目的がございまして、中間市の丘陵地にあります住宅地が宅地とJRの駅や、あるいは筑豊電鉄の電停、また路線バスのバス停と高低差の大きいところがございまして、高齢者の日常生活におきます公共交通の利用が困難な状況に対しまして、坂道等を支援する公共交通が必要であるということで取り組んで参ります。その先駆けとしまして、一昨年、27年10月に導入されました、南校区を走りますフレンドリー号を以下の表に示します4つの指標で評価を行ひまして、今後、中間市で高低差が大きい

いような住宅地で、高齢者のアクセス支援、そういったことをどういうふうに関割、効果について検討を行っていくかでございます。今回目標年次は、網形成計画の目標年次に合わせまして平成32年度でございます。最初に評価をしておりますのが、これも網形成を作成しました時に使いました数値、平成26年、27年の現況値というのを基にして評価を始めております。一番下にその表がございます。今回、南校区に関しましては、4つほど指標がございまして、①コミュニティバス1便当たりの利用者数、そして②コミュニティバス利用者の1人での市の負担額、③南校区地区、65歳以上の方なんです、こういった方々のお出かけ回数の増加、そして④としまして、公共交通利用割合の増加、というこの4つの指標を基に評価を行うことになっております。現況値は表に見ていただくとおりでございますが、1つ1つお話をしますと、まずコミュニティバス1便当たりの利用者数でございます。現況値、27年の数値では1便当たり0.91人と、1人にも満たない状況でございました。目標値は平成32年を目標としまして、1便当たり2人乗るとい、そういった目標になっております。今回、平成28年度のモニタリング結果によりますと、1便当たり1.02人と現況値に比べますと、上がってきております。ただそういった点では、1人以上ということになっておりますので、複数利用である公共交通の利用状況になったといったことがお話しできるかと思っております。しかし目標に対しましては、まだまだ数字的に足りてないところもありますので、今後も利用者の増加に取り組む必要があるという状況かと思っております。続きまして②です。コミュニティバス利用者1人への市の負担額というところでございます。現況値では1,495円、1人当たり市が負担しているという数値でございました。目標値は、これは①の2人というのと少し関連するんですが、1人当たり569円の負担までに持って行きたいという目標になっております。すみません、ページがちょっと分かりにくいでしょうか。報告書の45ページでございます。よろしいでしょうか。はい、では続けさせてもらいます。②ですね、そして平成28年度の評価値が1,308円、1人当たりの負担額になったということで、現況値に比べますと負担額が減少してございまして、評価値が改善されてきているといったことがわかりました。しかし①と同じように目標に関しましてはまだ今後も、努力して取り組んでいく必要があるかといったことがこの結果でございます。そして③でございます。65歳以上の方が、お出かけする回数の増加というところなんです。これは南校区のアンケートの結果から導き出しております。現況値が3.3回、一週間の間に大体3.3回くらい高齢者の方は、お出かけされているというアンケートの結果が出ておりました。これを、目標ではなるべく増やしていきましょうということで、3.4回という目標値としているんですが、今回アンケートの結果から分かりましたのは、平成28年度で週に3.6回ほど皆さんがお出かけされているという状況になりました。表値が向上し、目標値を達成したというような状況ではございます。しかし32年度に向けて、目標数値を維持していく必要もありますので、継続して評価値を維持していくことが今後望まれるという状況でございます。そして④でございます。公共交通利用割合の増加でございます。こちら、当初は20%という状況でございました。これを22%に上げていきたいと思いますという目標になっているのに対しまして、平成28年の評価値では、これもアンケートからの結果なんです、6.4%と逆に減っているという状況になっております。現況値に対しまして、評価値が大幅に減少してございます。③の先ほどお話ししました、65歳以上のお出かけ回数は改善しているのにもかかわらず、評価値が下がっているのは、これ自家用車による移動が多

くなっているのではないかということが想定されます。

それで、46ページでございます。

このような結果をもらいまして、特に最後の④の評価に対してなんですが、④のグラフを示しております、65歳以上の該当者の日常生活における移動手段の割合でございます。見ていただきますとわかりますように、自家用車の割合が高くなっておりまして、公共交通の利用が減っているような感じではございます。モニタリングの結果から、限られた住民が頻繁にフレンドリー号を利用しているということが想定されます。そのため、利用者が増加していることにはなっているんですが、公共交通の利用者している方の割合は減っているような状況かと想定されます。しかし、あくまでこれはまだアンケートの結果でございますので、アンケートの結果では十分のことが分からない部分もありますし、改善していかなければいけないような課題もあるのではないかとということで、今後は住民やフレンドリー号に関しまして、普段感じている状況や利用に対する考え方などを直に把握していくような、そういった取り組みが必要かと考えております。一番下に赤い枠で示しておりますが、次年度、これは予定にも入っているかと思うんですが、中間南校区においては座談会を開催していく必要があるのではないかと。多くの住民の方、特に高齢者の方からフレンドリー号に対する意識、感じていらっしゃる事、お考えなどを確認して改善していくことで、フレンドリー号の利用促進を図っていったモニタリング評価の目標に近づけていくことが、必要ではないでしょうかといったことが、今回の南校区のモニタリングから分かっております。

最後に47ページまでお話をしたいと思います。

47ページが南校区以外にも、網形成計画の中で設定しておりました評価数値でございます。目標値でございます。これについてお話をします。今回、目標指標としまして、一番左に①から⑤とあります。今、お話しさせていただきましたが、評価指標②におきますコミュニティバスの評価でございます。それ以外に①の指標としましては、公共交通不便地Aの割合ということを示しております。公共交通不便地Aといいますのは、網形成計画の中で位置づけていたんですが、バス停、駅等から一定の距離離れて公共交通が使いにくいという、そういったエリアを減らしていきますという目標になっています。現況値では32.4%のいわゆる空白になっている地域がございました。これを32年には12.9%に減らしていきますという、そういった目標値を設定していました。今回、底井野校区のなかよし号が運行を始めましたので、当時に対しまして、大幅に空白地が改善されたという形でございます。結果としましては10.3%と当初の目標を上回る評価になっております。こちら先ほどと同じように32年に向けて公共交通の維持、こういったことが今後の課題になってくるかと思われま。そして評価指標の③と④に関しましては、平成28年度ではまだ評価できる段階ではありませんでしたので、説明を割愛させていただきますが、一番下になります評価指標⑤でございます。路線バスの利用者数でございます。やはり、中間市に取りまして路線バスというのは非常に重要な公共交通の1つでございます。その利用者数を現況値では1日当たり500人という数値が得ることができました。これは減少してきておりました。網形成計画を作っている段階で、従いまして、目標値は平成32年での今まで利用者数を維持していきましようということで、500人という目標にしていたんですが、今年度の平成28年度といたしますか、平成27年10月から昨年9月までの利用者数を集計しましたところ、

1日当たり450人と残念ながら同じような傾向で、利用者が減ってきているという状況が今回のモニタリングで把握できました。このあたりのことが事務局からもお話がありましたように、モビリティマネジメント等を取り組みながら、路線バスの利用者を維持していくというのでも取り組んでいく必要があるかということが、今回の最終的な報告という形でまとめさせていただこうと考えております。以上でございます。

事務局 株式会社ケー・シー・エス様ありがとうございました。南校区コミュニティバスモニタリング調査結果につきましては、本日、委員の皆様にご提示しております中間市地域公共交通網形成計画推進事業実施業務委託業務報告書のとおり取りまとめをさせていただきました。今後につきましては、報告書の47ページの中間市地域公共交通まちづくりの目標に対する評価指標のとおり、平成32年度の目標値の達成に向けて、取り組んで参りたいと考えております。なお、報告書につきましては、平成28年度の成果品として、福岡運輸支局様にご報告したいと考えております。以上でございます。

会長 ありがとうございました。それでは、ただいま事務局及び株式会社ケー・シー・エス様から説明がございました南校区コミュニティバスモニタリング結果報告につきまして、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。

委員 北九州市立大学の内田でございます。今、ご説明いただきました45ページの、中間南校区のモニタリングの結果ですが、①、②、③の、コミュニティバス1便当たりの利用者数、それから市の負担額、65歳以上のお出かけの回数と現況値を見ると、少しずつ改善している傾向にあるのかなと受け止めました。しかしながら、④の公共交通の利用割合の増加というのが、20%から6.4%と大幅に減少している。たった2年でこれだけ変わるのかなというのもちよっと疑問です。やはりアンケートの調査方法が違うというのも、当然影響はしてくると思いますけども、いずれにしても、46ページのグラフ見ていただければ分かるんですけど、自家用車の利用者の割合というのがものすごく増えている。依存が高まっているのかなというのが考えられます。今、高齢者の事故の問題とか、日々、いろんなところで報道されておりますが、今後、高齢化社会となる中で、自家用車に頼らない、移動手段の確保というのも、やはり取り組んでいくことが重要になってくるのではないかなと感じています。以上でございます。

委員 運輸支局でございます。モニタリングの結果につきましては、先生が今ご説明したとおりであると思います。やはり、自家用車、高齢者の方を意識しつつ、あと自家用車の利用をどうするかというのが問題になってくると思いますので、幸い29年度ですね、座談会でありますとか、それか利用促進のこととか出てますので、そのようなことをしっかり取り組んでいくことが必要なのかなと感じております。以上でございます。

会長 貴重なご意見ありがとうございました。ただいま、内田先生からは、中間南校区のモニタ

リング結果から、現況値から改善の傾向にあるが、公共交通の利用割合が大幅に減少しており、自家用車への依存が高まっているのではないかと感じているとのご意見をいただきました。また、福岡運輸支局の中菌様からは、モニタリングの結果については内田先生の分析どおりであり、利用促進が課題と考えていると。事務局から説明があった29年度の取り組み、要は自家用車の依存が高まっている中でどのようにしていくのか、29年度の取り組みをしっかりと取り組んでいただきたいというご意見がございました。ただいまのご意見及び、本日ご提示した報告書をもとに、事務局におきましては、南校区におけるフレンドリー一号の運行計画の改善等に取り組んでいただきたいと思っております。それでは、本日、事務局から提案がありました中間市地域公共交通網形成計画推進事業実施業務委託業務報告書につきましては、福岡運輸支局様にご提出することで委員の皆様、よろしいでしょうか。

～異議なし～

会長 ありがとうございます。事務局は、福岡運輸支局様へ提出をよろしく願いいたします。運輸支局様、どうぞよろしく願いします。

続きまして、②公共交通マップ（案）につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 座ってご説明致します。お出かけマップ、出来上がってますのでこちらの方ご覧ください。公共交通マップ（案）につきましては、12月に開催した第3回会議におきまして、委員の皆様にご提示し、ご意見をいただいたところでございます。本日は、そのご意見を反映した公共交通マップ（案）をご提示させていただきます。今後の配布までのスケジュールと致しましては、本日、委員の皆様にご承認をいただくことができましたら、2月下旬の印刷・納品、3月上旬から中旬ごろに全世帯に配布したいと考えております。それでは、公共交通マップ案の前回からの変更点につきまして、株式会社ケー・シー・エス様からご説明をよろしく願いいたします。

委託事業者 それではマップについて説明させていただきます。今、お手元にあるかと思いますが、お出かけマップの原寸でございます。これが最終的には印刷物として上がる大きさのものになっております。現在まだ案でございますので、若干まだ最終的には精査をして、印刷に入っていく予定にはしています。それでは、前回、委員会で皆さんにご説明させていただいたところとどう変わってきたかというところを中心にお話をさせていただきます。まず見開いていただきまして、路線図という、その表紙がない方ですね、中側の方のところを見ていただきますと、路線図の中でこれは交通事業者の皆様方と確認させていただき、前回、路線に誤りがあったりとか、あるいは見にくかった色を使っているようなところ、そういったところ、今回、見直しをさせていただいております。それと、その路線図の左下の方にタクシーの案内を入れさせていただいております。下に西鉄様とか、あるいは筑鉄様等のご案内をさせていただいているんですが、やはりタク

シーの利用にも中間市におきましては市民の方にいらっしゃいますので、こういったお得な利用方法もありますよというところで、タクシーの利用についてもご案内するように致しました。それと、また大きく変わりましたところは、表紙があるページの方、ちょっと見ていただきますと、前回ちょっとご指摘がありましたが一番左下ですね、中間市の公共交通に関しまして乗合タクシーのフレンドリー号、なかよし号が同じような色で分かりにくいのではないかというお話がありましたので、そういったところを色を変えてきたりしております。また、路線バスとかに掲載しましたバスの写真がちょっと古いバスのデザインでしたので、新しいバスの車両に替えたりとしましてしております。そして、お出かけマップの表紙の方でございます。こちらは初めて見ていただく表紙になるかと思えます。これまでは、表紙が付いてなかったマップでお見せしてましたけど。いろいろ中間市におきましては、数多くの公共交通が運行しているということもありますので、それぞれどのような公共交通が運行しているのかといったことが分かるように、公共交通の絵を付けながら皆さんのお出掛けに使って下さいといった、そういった表紙にさせていただいてます。JRさんの車両につきましては、皆さん今現在見ていらっしゃる車両ともしかしたら違うようなデザインかもしれないんですが、新しくJR様の方から、今後、運行を考えていらっしゃる車両のデザインをとということで、あえて今、掲載させていただいているデザインを付けさせていただいています。あと細かいですね、文字のチェックとかそういったところも重ねてきておまして、ようやくここまで形ができました。今日、皆様に見ていただきまして、あとで事務局等で詳細のところをチェックして、最終の印刷に入っていきたいと考えております。

事務局 ありがとうございます。公共交通マップ案のご説明は以上でございます。

会長 ありがとうございます。それでは、ただいま事務局から説明がありましたとおり、本日、委員の皆様には、公共交通マップ（案）につきまして、ご承認をいただきたいと思えますが、ご意見等はございませんでしょうか。

委員 ひかり第一交通の谷口です。もしよかったらというレベルなんですけど、SUGOCA と nimoca のご紹介の部分が小っちゃい地図の方にあるんですけども、ひかり第一交通も使えますので、よかったら筑豊電鉄さんの後辺りに加えてもらえると有り難いなと思えます。タクシー会社が、今、全部使えるわけではないので、駄目だと言われたらそれはそれで構いません。よろしくお願ひします。

会長 ありがとうございます。ただいまのご意見につきましてどうでしょうか。

事務局 その辺は検討させてもらって、ご報告させていただきます。よろしくお願ひ致します。

会長 それでは、他にご意見等はないようでございますので、ただいま、ひかり第一交通様から、SUGOCA、nimoca カードの利用についても記載してはどうかというご意見がございました。その辺も検討しまして、今日、案として出しました形の中にそれを追加するかどうか

検討した形を最終形という形でしたいと思えますけど、よろしいでしょうか。

～承認～

会長 ありがとうございます。それでは、事務局におきましては、印刷及び配布に向けた事務手続きを決定次第、お願いしたいと思います。
続きまして、議題の（２）平成３０年中間市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）の策定につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは資料Ｂをご覧ください。
平成３０年中間市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）の策定につきまして、ご説明をいたします。

中間市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）につきましては、少子高齢化に伴う人口の減少や自家用自動車の普及による公共交通利用者の減少、さらに、中間南校区のように、昭和３０年代以降、山を切り開いて宅地開発を行った地形的に高低差のある公共交通不便地、また、底井野校区のようにバス路線の撤退により多く拡大した公共交通不便地の問題が存在し、既存の公共交通機関では補完することができていない地域において、新しい地域公共交通の維持確保を行いながら、既存の公共交通機関との連携による生活交通路線の機能を高め、市がめざすコンパクトシティの形成に向け、ＪＲ中間駅等の都市機能の集積を図る都市拠点と周辺地域との交流を図るための公共交通ネットワークの構築を目的とした計画でございます。前年度の計画からの主な変更点は、平成２８年１０月に実施した南校区コミュニティバス「フレンドリー号」の利用実態に関するアンケート調査の結果や、前回の会議における地元校区長様のご意見等を踏まえ、日常の買い物等への移動の負担を少しでも軽減するため、イオンなかま店に乗合タクシーの停留所を新設し、利用環境の改善を図る内容を踏まえた、計画案を本日、委員の皆様にご提案をさせていただきます。
２ページをご覧ください。

中間南校区路線の事業の目標といたしましては、平成２７年１０月から平成２８年９月までの１便あたりの利用者が太賀・朝霧系統１．０９人、通谷・桜台系統０．９５人と、各系統とも１．０人前後という状況にあります。今回の平成３０年度計画では、イオンなかま店への停留所新設など、気軽に買い物等に行くことができる環境整備を行い、利用促進に取り組むことから、平成２８年度、２９年度計画と同様、１便あたりの利用者２．０人を目標とし、太賀・朝霧系統は、年間利用者数１，６００人以上、収支率を２０％以上、通谷・桜台系統は、年間利用者数１，６１０人以上、収支率を２０％以上と設定しております。また、底井野校区路線につきましては、前年度の計画同様、１便あたりの利用者２．０人を目標に掲げることとしておりますが、平成２８年１０月から１２月までの３か月間の運行率が、３７％と１日８便のうち３便ぐらいしか運行していない状況となっております。今回の計画では、イオンなかま店への停留所新設など、気軽に買い物に行くことができる環境整備に取り組むことから、１日の運行便数全８便のうち５便（運行率６２．５％）

運行すると想定し、また、1便あたりの実車走行キロも垣生・下大隈系統は3.3km、砂山・底井野系統3.7kmと想定することで、年間の利用者数及び収支率の目標を、垣生・下大隈系統は、年間1,000人以上、収支率35%以上、砂山・底井野系統は、年間1,010人以上、収支率30%以上としております。

(2) 事業の効果といたしましては、今回、平成28年10月に実施した南校区コミュニティバス「フレンドリー号」の利用実態に関するアンケート調査結果から、イオンなかま店を目的地とする移動を行っている方が大多数であることから、イオンなかま店に停留所を新設することで、利用者の負担軽減はもとより、地域の活性化にもつながるものと考えております。

次のページをご覧ください。

3. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者から次のページの5ページの13. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画までは変更ございません。

続きまして、6ページをご覧ください。

今後のスケジュールと致しましては、平成29年度5月下旬に開催予定の第1回会議におきまして、本計画の合意をいただきたいと考えております。

8ページをご覧ください。

参考資料として、フレンドリー号の12月分までの運行実績を掲載しておりますが、下のグラフを見ますと12月の実績は、運行日数が少ないことや気候の状況などから、両系統とも、1便あたり0.94人と利用者が減少しております。しかしながら、1年前と比較いたしますと、若干ではございますが、増加している状況にございます。

続いて、11ページをご覧ください。

なかよし号の12月分までの運行実績を掲載しております。なかよし号は運行開始後3か月という状況ではございますが、赤字で困っておりますように、垣生・下大隈系統の利用者は増加傾向にあり、砂山・底井野系統の利用者も12月は減少しておりますが、運行率は、42.2%と4割を維持している状況にございます。今後も運行実績につきましては、委員の皆様にご報告をして参ります。

続きまして、13ページをご覧ください。

13ページからは、イオンなかま店への停留所新設に伴いまして、フレンドリー号となかよし号のそれぞれの運行計画を朱書きにて見直しをしております。

まず、中間南校区乗合タクシー運行計画書につきまして、イオンへの停留所新設により太賀・朝霧系統は、往復で1.4km、通谷・桜台系統は、往復で0.2km、運行距離が延びております。

14ページをご覧ください。

停留所間のキロ程につきましては、変更箇所を朱書きしております。太賀・朝霧系統の行き便では、赤い色のところですが、⑩番通谷電停の次に、⑪イオンなかま店の停留所が追加され、⑫太賀通り一丁目から二丁目と太賀団地をまわりまして、再び、⑩通谷電停と⑪イオンなかま店と立ち寄り、中間市立病院へと向かう運行ルートに変更しております。通

谷電停とイオンなかま店に2回止まることで、距離は少し伸びますが、利便性を高めております。

次に表の右下をご覧ください。

帰りの便でも同様に、⑱中間市立病院の次に⑩イオンなかま店、⑩通谷電停に立ち寄り、⑫太賀通り一丁目から二丁目と太賀団地をまわり、再び、⑩イオンなかま店へと運行するルートに変更しております。次に、通谷・桜台系統の行き便では、⑯通谷電停の次に⑰イオンなかま店が追加され、帰りの便でも同様に、⑱中間市立病院の次に⑰イオンなかま店が追加されており、運行距離が延びております。

次に16ページをご覧ください。

参考資料として、現在と変更後の運行時刻を掲載しております。変更後の運行時刻につきましても、停留所での待ち時間等を考慮し、距離が延びておりますが、運行時間は変更しておりません。

続きまして、18ページをご覧ください。

底井野校区予約型乗合タクシー運行計画書では、5の運行系統につきまして、垣生・下大隈系統と砂山・底井野系統の両系統とも0.2km、運行距離が延びております。また、次のページをご覧ください。東部地区の乗降制限をする停留所につきましては、イオンなかま店を加え、5か所としております。その他につきましては、修正はございません。

20ページをご覧ください。

停留所間のキロ程につきましては、垣生・下大隈系統そして、次のページの砂山・底井野系統とも、イオンなかま店への停留所新設分だけ、距離が延びております。

続きまして、22ページをご覧ください。

参考資料として、垣生・下大隈系統の時刻表、23ページには、砂山・底井野系統の時刻表を掲載しており、停留所が新設されますが、その他の停留所間の運行時間を見直し、運行時間全体では45分と変更しないこととしております。

以上が、イオンなかま店への乗合タクシーの停留所を新設することに伴う運行計画書の見直しでございます。また、本日、参考資料1と参考資料2として、中間市の全体図と、イオンなかま店の位置図と運行ルートの詳細図を添付しておりますので、のちほどご確認ください。以上でございます。

会長 ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありました中間市地域内フィーダー系統確保維持計画（案）の策定につきまして、ご意見・ご質問等はございませんでしょうか。

委員 中間南校区長の松崎です。本日、事務局からご提案がありました計画案につきまして、地元自治会としては、大変うれしく思っております。地域の皆様からも、通谷電停の停留所からイオンなかま店まで距離があり、特に雨の日などは買い物をした荷物を持っていくのは大変困っているという声を聞いていましたので、今回、イオンなかま店の中まで、フレンドリー号が運行していただくことになれば、利用者も増えていくと考えております。自

治会としても広報活動には全面的に協力して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員 ことぶきタクシーの小林でございます。今回、事務局からご相談をいただきまして、イオンの方に停留所をつくるという方向に進んでおります。当初からこれができるのであれば良かったんですけど、なかなかいろんなことがありまして、できなかったということでございます。もちろんイオンの中には我々既存の業者がタクシー乗り場として停まっておりますので、その近所にこの停留所を持ってくるということではできませんけども、なるべく皆様の利便を図りたいように思っておりますので、よろしく願い致します。蛇足ではございますけども、イオンなかま店、やはり売上等々が減っているようです。皆で支えて育てあげないと、スペースワールドや久留米の木村屋パンのようになくなってしまうと。そんなバカなことないやろうと思っていたら、なくなりますから、その辺をちょっと自治会の方、住民の方たちに何かのことがあるにつれ、ちょっとお話していただければ有り難いなと思えます。以上です。

委員 底井野校区長の齊藤です。さきほど、松崎委員からもございましたように、底井野校区としても、イオンなかま店の中で乗り降りができるようになることは非常にうれしく思っております。高齢化が進んでおりますし、足の不自由な方についてはわずか 200m そこそこの距離でございますけれども、大変有り難いことだと思っております。日常の移動の負担を軽減していただく今回の計画を実施していただくよう、委員の皆様のご協力をお願いいたします。

委員 北九州市立大学の内田です。今回、イオンなかま店停留所新設ということで、利用者の方の利便性、移動負担が軽減することは非常に良い計画なんじゃないかなと。それだけではなくて、商業施設とか集まる場所ということもありますし、地域経済の活性化、利用者同士のコミュニケーション、そういったところで停留所設置による効果は、非常に大きいのではないかなと考えております。これで、利用者がまた増えていくことを期待しております。それから底井野校区につきましても、まだ3か月の状況ですけども、運行率約4割ということで、全8便が出ている訳ではない訳で、そういった運行率、ある程度見込まれる運行率で利用者の算出、あるいは収支率についても算出するということが望ましいのではないかなと考えております。やはり利用者の促進を図っていかないといけないということでございますので、広報活動が非常に重要になってくると思えます。また、イオンに新しく停留所が設置されて運行ルートが少し変わりますので、その運行が決定しましたら車内だとか自治会、回覧板とか、丁寧に周知をしていただくということで、利用促進に繋げていく必要があるんじゃないかなというように考えます。以上です。

委員 運輸支局でございます。私の方からは今回の計画の目標値についてということで、若干お話をさせていただきます。利用者数につきましては、前年より多少下降修正にはなってお

りますけども、これにつきましては運行開始後の利用者等に合わせて設定されており、妥当ではないかなと考えております。また、さらなる利用促進をしていただいたうえでまた来年度事業補助がございますので、その時には目標値を達成できているという状況に取り組んでいただければと思います。以上でございます。

会長 貴重なご意見ありがとうございました。ただいま、いろんな意見を聞かせていただきました。意見を取りまとめますと、今回のイオンなかま店への停留所の新設は利用者の負担軽減はもちろん地域活性化等への効果も大きくなると思っております。松崎委員からは地元自治会としては大変うれしく、利用者が増えていくのでないか。そして、自治会としても広報活動には全面的に協力していくというご意見をいただきました。また、ことぶきタクシーさんからも、今、店が無くなっている中、イオンも売り上げは低減している。その中で、皆で盛り上げていきたいというご意見がございました。

齊藤委員からは、松崎委員と同じようにイオンなかま店の敷地内で乗り降りできることは非常にありがたく、利用者の移動の負担を少しでも軽減できるよう取り組んでいただきたいのご意見がございました。北九州市立大学の内田先生からは、今回の計画の見直しは、利用者の負担軽減だけに留まらず、地域経済の活性化など効果が大きいこと、また、運行見直しが決めた後の広報活動が重要になるというご意見をいただきました。福岡運輸支局の中菌様からは、利用者については前年度より下方修正になっているものの運行開始後の利用者数の調査結果に合わせて設定されたものと思ひ、さらには、利用促進に努めて目標数値の達成をお願いしたいのご意見がございました。

また、中間市といたしましても、今、先生や運輸支局の方からお話があったモニタリングの結果で自家用車の依存が高まっていると。高齢者の事故なんかも報道されておりますが、中間市といたしましても、高齢者の免許証の自主返納を促進するような助成制度も今、考えているところでございます。

ただいまのご意見を取りまとめますと、今回のイオンなかま店への停留所の新設は、利用者の負担軽減はもとより、効果も期待でき、大いに取り組んでいく必要があるが、タクシー事業との競合などを考慮し停留所の設置箇所を慎重に見極める必要があること、そして、運行見直しの決定後は、広報活動が重要となり、自治会長様から住民の皆様への積極的な声かけをお願いしたいこと、また、計画の目標値の設定につきましては、実績値等の分析を基に設定していくことが望ましいというご意見にまとめることができると思っております。本日、ご提案した計画案につきましては、次回、5月に開催いたします平成29年度第1回会議におきまして、委員の皆様にご承認をいただきたいと考えております。本日は、計画案をお持ち帰りいただき、内容の精査をしていただくとともに、事務局におきましては、関係者と調整のうえ、再度、計画案をご提示していただきますようお願いいたします。それでは、式次第の3その他、今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは、資料Aの7ページをご覧ください。

今後の会議スケジュールにつきまして、平成29年度第1回交通会議を5月下旬に開催し、①平成28年度決算及び平成29年度予算案の審議、②本日ご提案いたしました平成30年地域内フィーダー系統確保維持計画案の審議、③平成29年度地域公共交通網形成計画推進事業の取り組みにつきまして、ご審議を賜りたいと考えております。委員の皆様ご意見をよろしくお願いいたします。

会長 ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきまして、ご質問・ご意見等はございませんでしょうか。

～ご質問・ご意見なし～

会長 ありがとうございます。
それでは、本日の地域公共交通会議の議題すべてが終了いたしました。
委員の皆さまには、お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございました。来年度につきましても、本市の公共交通がよりよい環境となりますようさまざまなお立場からのご意見をどうぞよろしくお願いいたします。本日は、お疲れ様でした。